大阪産業大学総合図書館報

1997 創刊号

図書館だより

目次

「図書館だより」創刊を祝い……………………2
「図書館だより」創刊にあたり……………………3
図書館での出会い…………………………………4
図書館との付き合い………………………………5
図書館システムの紹介……………………………6～7
総合図書館インフォメーション……………………8
「図書館だより」の創刊に期待する

大阪産業大学 学長

天野 光三

20世紀は明治33年からはじまりました。それから
の100年間に科学技術と生活・経済が飛躍的に進歩し、
地球環境さえ変調を来すに至りました。世界人類の歴
史から見てもまさに波瀾万丈であったこの20世紀も
あと2年で終わって、新しい21世紀に入ります。

21世紀にはわが国の高齢化・少子化の傾向が一段
と強まり、インターネットの普及や、杜撰・デジ
タル情報化が進んで日常生活に普及するでしょう。18才人
口の減少につれ、誰もが大学に進学できるという近
い将来に備えて各大学は、新しい時代への対応に真
剣に取り組んでいますが、私学の図書館も、高度信
報化の新しい時代に相応した変革を迫られています。

21世紀中期を待たず、大抵の図書はその場で日本
語に翻訳できるようになると言われるくらいです。
今からその時代への対応を心掛ければなりません。
一昔のように、ただ単に貴重書の所蔵や、蔵書数の
多さだけを誇る図書館が時代遅れになってしまう
ことはおそらく間違いないでしょう。とくに20年・30
年間に、いかなる目的にも両図書を閲覧されるとの
ない蔵書が何万冊も書棚に並べられているという蔵書数の
多さだけで、私学の図書館が評価される時代では
なくなると思います。

誤解を恐れずに言えば、21世紀の私学の図書館の主
な役割は次のように思います。

（1）本学においても「OPACシステム」で瞬時
に便利な検索ができますが、蔵書目録のデータベー
ス化を推進し、さらには、探している内容が載っ
ている図書について、学内はもちろん、学外の何処の
図書館にどんな図書があるかに関する豊富な情報が
提供されること。

（2）学外の他の図書館の蔵書の内容にまで相互に
容易にアクセスし、入手できる全国規模のマルチ・
ネットワーク・システムに参加していること。

（3）学生の教育・研究のために必要な参考書や関
連文書を、教育効果を上げるために必要だけ整え
ていること。

（4）学生の自発的な読書・勉強のための良い環境
を提供すること。

（5）地域に開かれた大学として、社会人教育や生
涯教育に貢献できること。

以上のように、これからのマルチメディアのハード・
ソフトの激激な進歩に伴い、大学図書館も滑らか
な変革にあり、利用者のニーズを満たすために、情報
化手段を積極的に取り入れて行かなければなりません。

この期に当たり、『図書館だより』を刊行すること
と利用者からのニーズを知り、また“提供者”
である図書館からの情報のアナウンスにも多分に意
味があります。

“メディア”とは“仲立ち”のことでそうです。
今回創刊される『図書館だより』を通じて、図書館
と教員・学生が交流し、文献情報の新しい入手の方
法と図書館のあり方についてともに考え、実践する
ための“メディア”となってほしいと思います。そ
の結果、本学図書館が新時代に遅れず、むしろ先取
りして、便利で有益・快適な図書館として、21世紀
にも喜ばれるようになるために役立ってゆくこと
を期待します。
この図書館が誕生した16年前には、その外観も設施も本当に誇らしく思えるほど立派なものであった。あとは学生諸君はもちろん、教職員もここぞって親しみ利用できる図書館になるようにサービスを心がけ、必要な蔵書を増やして整理をすすめて行けばよかったろうと思ったものである。それが現在の6号館の4階フロアに図書館があったが、その当時一度図書館長を半年勤めたことがある私には、この館の誕生は感無量と言ってよかった。その後、工学部の学科増、大学院の誕生、経済学部の新設、経営学部の二学科制、大学の規模が拡大した。臨時定員増の影響もあってのことだが、閲覧席を確保するために4階の書庫まで開放しても、軒列が収めず、多くの利用者が詰め詰められるほどになっている。また蔵書も30万冊に増加し、毎年8千冊は増え続けており、書庫増築を含め、利用者のための図書館として今後も充実するよう努力していきたい。

この間図書館そのものの在り方が、資料や資料の利用の仕方での電子化に伴って変貌を迫られているのである。例えば学研都市にある奈良先端科学技术大学院大学の図書館には、紙の資料は少なく、コンピューターの画面に出る資料なのだ。もちろん私たちは大学では、研究分野も貴重な研究資料であるから、全部をそうする訳にはゆかないが、いずれは図書館まで足を運ばなくても資料を提供できる時代がくるだろう。その時代の到来に備えて本学図書館も可能な電子化に遅れをとることはできないのである。

このような変革を迫る課題の中で図書館の在り方の変化と利用の仕方を伝える「図書館だより」は、今後欠かせぬ情報源となるもので、まさに時宜に適った企画だと思う。

いずれにせよ、大学図書館は大学の顔である。外見の問題は真っ先に図書館を訪れる。学生方はどのように資料に支えられて研究しているのか、学生の図書館の利用の仕方はどうか、図書館での過ごし方はどうか、はたまた職員の対応やサービスはどうか、図書館設備の機能は役立つなどを考えることで、その大学の実情を推測できるからである。とりわけ本学の場合、学生、教職員にとって大学周辺、並びに通学路に快適なアンティーク空間が得がたいという事実もあるから、設備と機能の両面で図書館の果たす役割は、特に重要性を増すことになる。学生、教職員がゆったりと落ち着いて過ごせる知的アンティーク空間を目指して、誇りある図書館づくりでありたいものである。

（教養部教授）
図書館での出会い

大学図書館は大学のシンボル的存在である。大学の英知のシンボルである。しかし、最近、このような見方は古くなってきたように思える。ただ、これが正しいわけではないが、鉄道の駅といえば、それほど乗り降りるあるいは荷物の積み降ろしを主な機能とする施設に考える。この見方は現在も変化でははないが、近頃は駅そのものの機能が多様化し、様々な機能が付与され、いわゆる集客施設のひとつとして考えられるようになっている。そのため、駅舎そのものに多彩な工夫が凝らされ、駅舎そのものが観光スポットになっているところさえある。このように、時代とともに施設は本来持っている機能のほかに、多様な機能が付与され、人が集い、人の様々な楽しみを満たす場ととなっている。大学図書館も時を経るにつれて、その機能にも変化が見られる。コンビューター技術の進展に伴い、コンピューターを利用した文献検索が容易になり、さらに様々な映像メディアを使ってお好みの映画を鑑賞したり、臨場感あふれる良質の音楽を楽しむことができるようになっている。しかし、このような現代的な図書館の活用のほかに、図書館での別のことによく訪れる人も多い。これは日々図書館を利用するために経験することであるが、人と人との出会いである。図書館は知る人のかな同士が席を空けて、レポートの作成の準備をしたり、ゼミの報告資料の整理をしたり、次の一時的に授業準備をしたり、あるいは気ままに読書をしたり、人それぞれである。こうした図書館の中でも、いつも決まった時間に、決まった席にいつもの人が座っているものである。こうした人と知り合い、共通の話題を共有できるように、大学生活もひとつ楽やいものになるだろう。ただ、読書家でなくても、図書館は君達にささやかな楽しみを与えてくれる場になる。まずは、肩肘をはずり図書館通りをはじめ、やがて君達には、いわゆる図書館散歩を勧めたい。自分自身をさらに考えると、決して見落たことではないが、図書館を有効に利用したという思い出はない。しかし、大学院に進み、学問を職業として意識するようになり、やむをえず研究のために必要な文献、資料を検索するため頻繁に図書館を利用しようようになった。やって、休日を利用して、あえて図書館に配載されている図書や雑誌を見て歩き、タイトルを見て気になるもの、あるいは探している立派な装丁の本を手に取り、ページを経由、またそれを棚に戻し、再びあえて本と書架と書架の間を散歩する。このようにして時間のつぶすのも楽になる。時には、思わぬ発見をすることもある。また、思わぬ書物との出会いが君の人生を変えるかもしれない。図書館での楽しみ方は人それぞれである。自分なりの図書館での楽しみ方を見出してはどうだろう。君の人生を変える出会いがあるかもしれない。

（経営学部教授）

イギリス産業革命史コレクション (501点)について

経営学部教授 鍋田 武治

本学図書館に所蔵されている稀観書コレクションは、近年歴史の評価を高めつつある自負できる。なかでも標記コレクションは、イギリス産業革命の諸問題を扱う文献、産業社会経済史、技術史および法制史などの学問分野から、つまり、文明社会史的に照らした多くの重要な文献資料から構成されている点で注目されている。

たとえば、アーカイブ自身によって起こされた特許侵害に関する訴訟記録（1785年）、1853年8月から10ヶ月にわたるプレストンの工場におけるストライキ関連のパンフレット、ピラの収集、あるいは1802年工場法成立以降の労働条件改善のための議会議論ならびに実施について、1835年からの工場監督官の報告セットなどの基礎資料ばかりでなく、機械導入が労働者階級に与える肯定的・否定的影響を論じ、リカードの「経済原理第3版」、ロバート・オッフェンの「ラナーク州への報告」（初版）、「新社会経済」（第2版）、さらにはパベージ「機械と製造業の経済学」（初版）、ハリエット・マーチノ「工場論争」
図書館との付き合い

私が研究してきた主たる対象は、「イギリス19世紀の労働・社会問題とその対策」についてなので、その文献資料はイギリスに存在するものが多く、当初、日本には主要な文献・資料の大部分が国立各大学等に分散して所蔵されていたに過ぎなかった。最初の頃は、それらの所在を探りながらマイクロフィルムで取り寄せることで、多くの時間と費用を費やさざるを得なかった。最近は、コピーの機械も情報・通信網も発達し、海外にも自由に、かつ比較的安く行けるようになったので、寄託書の掲載が盛んになったのは大助けである。しかし、他方で、従来日に触れることのなかった資料が掘り起こされたり、また直接海外に行って手に触れ、目で確かめることを要求されるのも前に増えてきたとでも言える。

これらの資料は、多くは大学図書館や主要な大学図書館や古文書室、ロンドンはじめ各地の公開文書館などに保存されている。これらは利用のためのアクセスも、時代の流れと共に大変進歩してきたというのが実感である。だいぶ以前になるが大英図書館やパブリック・レコード・オフィス（Public Record Office-PRO）などは閲覧券を手に入れるためには住所を確定して、そこに郵送される方式をとっていたが、現在は外国人でパスポートを提示すれば、即時に閲覧券を発行され、入館を許可され、利用できるので随分と便利になった。

大英図書館やその付属の新聞図書館あるいはロンバード大学のネット・ハウスにあるゴールドスミス・ライブラリでは、まず閲覧室についていったら自分の座席を定め、その座席番号を図書館請求書に書き入れてカウンターに提示すれば、その機で請求した新聞・書籍を選ぶことができる。ただし、その間だいぶ待たねばならないのが難点である。新聞には最近はマイクロ化され、マイクロ・リーダー室で読むものもある。

PROではもっとコンピュータ化が進み、カウンターでブリーパー（bleeper）を受け取り、その番号が座席番号であり、それをもとにコンピューターを通じて目的の文書を求めることができる。文書が用意されるとピーラーが鳴り、カウンターで受け取って所定の席で閲覧する手順になる。

コピーは専門の手順により、手続きをすれば、翌日渡しか、一週間ほどで郵送される。だから複写箇所さえはっきりしていたら、手早く依頼することも可能であるが、書写の文書（manuscripts）や新聞記事は複写箇所を正確に指定するのが難しい。しかも書籍にもまして、手書きの文書や新聞の実物に接すると、複写では得られない、その時代その人物の息吹とは行かない中でも、香気がここはかたくなく伝わってくる体感に浸り、その豊かさを味わうことが出来る、という長所がある。私はそれを求めて今年もイギリスの図書館・公文書館巡りを繰り返しているかも知れない。

（経済学部教授）
図書館の役割について

図書館は教育研究上必要な資料を系統的に備え、利用者の皆様が資料の有効活用が出来ることを目的としております。

図書館における資料には図書資料（紙媒体）と視聴覚資料および最新型電子資料等が有りますが、大学図書館において利用者の求める資料の量・質の向上を図るため電子図書館への推進を含め、情報化社会の急速な変化の中で、益々学術情報の情報提供の基盤としての役割が求められております。

本学図書館において図書館機能の充実を図り、教育研究のために図書館が皆様のサポートをします。

総合図書館システムの紹介

総合図書館では利用者のサービス向上と業務の効率化を図る為、新しく図書館総合システムを平成7年より導入しました。

このシステムは図書誌の貸出・返却をはじめ受入から支払いまでの総合的な管理が行えます。

総合図書館システム構成図

1. 所蔵検索（OPAC：Online Public Access Catalog）
2. 閲覧業務（図書の貸出・返却）
3. 収書業務（図書・雑誌の発注から管理）
4. 製本業務（雑誌の製本）
5. 予算業務（図書・雑誌の発注から支払いまでの予算管理）
6. 管理業務（蔵書点検、各種資料作成）

このシステムを稼働している施設は下記の図に表示しています。

サーバー：本体 SUN SPARC SERVER 1000E 1台
クライアント：端末 CANON LASER SH-C 80G 2台
プリンター：COMPAQ DESKPRF 6100 17台
CANON LASER SH-C T 50G 3台
EPSON MJ-1000 1台

学内LAN 地域情報センター
学外回線
産業大学には約30万冊の図書があります。現在その約70%の情報をコンピュータで検索できます。

所蔵検索（OPAC）の使い方

所蔵検索（OPAC）は、2階メインカウンター横に設置されています。検索方法には次の4種類あり、それぞれの検索項目入力後に「検索ボタン」を指定すると結果が表示されます。

●カウント検索…書名、著者名、出版社等のことをキーにして行う検索。
●書名検索…書名の部分一致による検索と書名の単語による検索が行えます。
●著者名検索…著者の部分一致による検索。
●分類検索…分類別に表示されている画面より項目を選択しながら検索を行う。

以上の検索以外に資料種別や出版年を併せて検索することができます。

ワード検索 画面例

書名検索 画面例

著者名検索 画面例

分類検索 画面例

検索結果の表示 画面例

結果一覧の表示 画面例

上の画面に下部の結果一覧のボタンをクリックするとヒットした図書の書名、著者名、出版年の人名が表示されます。

目的とする図書のエリアをクリックすると「請求記号」「所在」「貸出状態」の情報を得ることができます。また、これを印刷することができる。

※詳しい使い方は、操作マニュアル又は、図書館職員にお申し出ください。
1. 開館時間
●図書館は平日9時～20時30分、土曜日は9時～19時30分の間開館しております。（日・祝、休館、定休日を除いて）
●都合により変更することがあります。
●日曜日、国民の休日、本学創立記念日（11月1日）
●館内整理日（毎月25日、当日が休日の場合は翌日）
●臨時の休館日は、その都度掲示します。

2. 休館日

3. 貸出冊数と期間

<table>
<thead>
<tr>
<th>種 別</th>
<th>冊 数</th>
<th>期 間</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学 生</td>
<td>5</td>
<td>2週間</td>
</tr>
<tr>
<td>大学院学生</td>
<td>30</td>
<td>5カ月</td>
</tr>
<tr>
<td>本学職員</td>
<td>90</td>
<td>1年</td>
</tr>
</tbody>
</table>

＜注意＞借りた本は、期日までに返却してください。次に借りたい人のためにも迷惑がかかるため注意してください。返却期限を過ぎた場合、遅滞日数の倍数の倍数だけ貸出を停止します。

ライブラリーコンサート

図書資料として蓄積されたCD・レコードなどの有効利用と視聴覚教育の充実及び利用者サービスの一環として、世界一級のオーディオ装置を設置しました。この装置は、一歩を引いてコンサートホールの臨場感を味わうことができます。

勉強・仕事の合間に、ゆっくり気分で読書し、クラシックを聴いて、ネトとしているのもよいかもしれません。
　クラシックは、感性・創造力を豊かにする力を持っていることは脳波研究で証明されています。脳の活性化のためにもおすすめします。

図書館新聞コーナー利用のすすめ

図書館新聞コーナーに新聞コーナーのあるのご存知ですか？一般紙、外国紙、専門紙、スポーツ紙など多くの当分の新聞をおいしています。新聞には、様々な読みたい見方があります。一つの記事について、読み比べたり、批判の目で物事を考えるので面白いと思います。
また、過去1年分は保存していますので、見たい場合には、カウンターへ申し込んでください。

なお、朝日新聞、日経新聞などの記事をCD-ROMで検索もできます。

編集後記

イギリスの随筆家スティルの言葉に「だからにとっ
て勝利が大切であるように、精神にとっては本を読む
ことが大切である」— 人は健康を維持するために適
度の運動をしなければならない。それと同じように人
間は、人間らしさを維持するために常に適当な読書が
必須である。読書をしない人は自ら人間の資格を放
棄しているものと考されます。

t是も、あまつところ1ヶ月半、私の実の上には多
くの本が積まれているが……。スティルの言葉はそれ
よりもっと重い。

図書館だより No.1
発行日平成9年11月17日

編集発行 大阪産業大学綜合図書館
大阪府大東市中野2丁目1-1
Tel.0720(75)3001(代) Fax.0720(73)1664